

佐保会兵庫県支部だより

第 19 号

佐保会兵庫県支部

〒650 神戸市中央区山本通り4-2-9

浅野晶子方



「秋篠の里より」 那須端子 (S23・臨家)

ご挨拶

浅野晶子 (S23・家)

昨年九月、長年佐保会兵庫県支部長として活躍下さいました津野先生が亡くなられ、その後空席になっておりました支部長のお役を、大勢の先輩方のご推挙と皆様方のご同意で、私如きに仰せつかり戸惑っております。

兵庫県は県域も広く、今や千余名を擁する大きな支部でございます。歴代の先輩方が築いてこられた伝統の上に、時代のニーズに合わせた運営も必要かと存じます。

同じ学び舎に青春の多感な時期を過ごして、同じ心の故郷を持つ者は時代を超えて無条件に心許せる仲間です。佐保会本部は勿論、支部がいづまでも心の拠り所でありたいものです。

幸い、副支部長はじめ各役員、そして若い世代の方々による強力な事務局態勢が、頼りない支部長をがちり支えて下さり、力強い限りです。当面、睦会、佐保婦人学級、若草、支部便りの発行、もより会など、今年度も順調に歩みを進めております。さて、去る一月十七日早晩、阪神・

淡路地方に地震による未曾有の大災害が発生いたしました。悪夢のようと思しますが、あれから半年余り、今でも、夢ではないかしら、夢であって欲しいと思うがございます。この地域には当然、佐保会員も多数居住され、亡くなられた方も二名おられ、誠に無念でございます。大切なお住まいにも全壊、半壊、一部損傷など多くの被害が出ており、精神的ショック、痛手を受けられた方も少なくありません。

実はこの被害の状況も、未だに正確な数が掴めておりません。と申しますのも避難先が分らなかつたり転居先きも一時避難的転居の方、半永久的転居の方などあり、この点も早急に確かめたいと思っております。

このようなことも地区リーダーにお頼りすることが多くなりましょうし、今年度は特に地区リーダーとの連絡を密にして、きめ細かい交流を図ってまいりたいと考えております。皆様方の忌憚のないご意見もぜひお寄せ下さいませ。

穂田(稲を刈り取ったあとの株から新しいみどりの芽が出ている田)

支部総会報告

六甲アイランド
神戸ベイシエラトンホテル

地震のためライナーが不通だったが、JR住吉駅よりホテルまで送迎バスが出ていた。出席者71名この日を迎えられ、みな笑顔である。

初めに物故者への黙祷の後、

一、開会のことは 川口登美子

二、役員改選経過報告 八木 静子

三、改選委員の承認 会員一同

四、新支部長挨拶 浅野 晶子

五、新入会員紹介 //

六、議長選出後議事に入る。

①平成6年度事業報告 松本佳代子

② 〃 会計報告 立花 紀子

③ 〃 会計監査報告 山田 桂子

④平成七年度事業計画案 吉江 順子

⑤ 〃 会計予算案 藤井 勢子

七、記念贈呈 卒寿のお祝など

八、講演「追憶の落ち穂」と題し、S

19文国卒川口沙子姉より、戦時下学生時代の寮生活及び教生としての思い出のお話と、育児に使われた小布をスクラップブックに沢山整理され、心をこめた生活の軌跡とお人柄を感じた。

九、洋食正餐を楽しまつ、歓談

二〇、各部報告、本部、佐保短大、大学婦人協会、佐保婦人学級、支部便り編集委員紹介 二、閉会

新役員決まる

支部長 浅野 晶子(S23・家)

副支部長 大久保勝美(S31・文・国)

川口登美子(S39・家・食)

吉江 順子(S35・文・社)

瀬川 順子(S41・文・英)

松本佳代子(S44・文・英)

藤井 勢子(S48・家・食)

内匠 慶子(S18・保)

東 晶子(S19・文)

浅野 晶子(S23・家)

佐藤すなほ(S19・家)

山川はる江(S19・保)

大久保勝美(S31・文・国)

寺田 翠(S37・幼)

松本佳代子(S44・文・英)

佐保短大 八木 静子(S9・文)

大学婦人協会 津村 真子(S35・文・教)

藤岡 利子(S38・家・英)

支部だより編集 尼崎地区七名

前支部長 津野貞子先生を偲ぶ 一周忌に寄せて

先生は明治四十五年三月ソウルで生まれ、父上の仕事上、満州や中国青島で育たれた。昭和八年、奈良女高師を卒業後、母校青島の女学校に赴任された。昭和十二年瀋陽、溝橋、事

件も近き不確の春、一時、大分の女子師範に勤務されたが、三年後に大陸への思い強く再び渡満、奉天(6頁の地図参照)の浪速高女を経て、新京敷島高女の教諭及び舎監として奉職中、昭和二十年八月八日、ソ連の対日宣戦となった。

保護者を失った二十人の女生徒を連れ、当時まだ日本領の朝鮮なら安全かと、鴨緑江のそばまで貨車で到着しながら渡れず、再び屈み通して新京に戻られた。飢えたソ連兵から女生徒を守り乍ら、難民収容の小学校で、八路军(後の中共軍)と内戦中の国府軍将官の軍服を縫う内職をしながら、昔雇っていた中国人のお米のさし入れて数名の寮母と乗切られた。男の人々はソ連兵が引っぱって行き労役に使うか殺されるかであった。一年後リュック一つで佐世保に帰国された。当時の生徒さん達(今は七十才)にとって終生、親より大切な人であられた。

昨年九月二十一日、二か月の闘病後病床で永眠されたが、最後の三日間の夢うつつの中のウワ言は、五十年前のその脱出行のことがかりであったと妹様から伺った。

昭和二十二年春、三十五才、先生は、母校波多腰先生のお世話で兵庫県加古川青年師範学校に復職された。二年後、同校は神戸大学に包括され、教育学部講師より助教授、教授と進まれた。この間、京大医学部に通り、若い生徒と肩を並べて研究、ピタミ

ンB誘導体アリチアミンの存在をニンニク、ニラ、ネギより抽出証明され、昭和三十三年に医学博士号を取得された。食品、栄養学の研究のみならず、教職を志す学生の指導に情熱をそそがれた。またある時期大

学紛争のころの毅然とした態度は同僚の先生方の支えでもあられたそう

だ。退官後は、京都女子大に七年、更に看護短期大の教壇にも入院の三日前まで立たれた。

同えば幼いときから親分肌とか、男の子を含めてガキ大将でいらしたそう。修羅場を越された骨太

い剛毅な方であり乍ら、女性らしさをもちで、昨年六月の総会にはお洒落なレースのツーピスを召され、お元気で歌っていらした。病院まで、記録を書くべくノートを持込まれながらお志半ばとの事。

前支部長逝去により、浅野支部長以下新役員が改選されました。

当支部は、現在一〇五〇余名を擁し、若い会員の活動分野も非常に拡大し、年代層も厚くなっており、相互の親睦を礎に、睦会、若草との発展が期待されます。

長年、前支部長を支え、事務局に続き、副支部長として尽くされた内山美智子姉、坪根ミキ姉、をはじめ前役員の皆様は、誌上をもちまして厚く御礼申し上げます。

(関連記事、10頁四段に)



左上より 瀬川 松本 吉江 藤井 大久保 浅野支部長 川口さん

兵庫県支部 新時代を迎える

教職や家政学会に尽くされる傍ら、情熱を長年佐保会兵庫支部のためにそそがれ、多くの事をお育て下さった。支部だより創刊号以来六十七回随筆を記されていて、貴重な遺稿を再読し、信念をもって八十三年を生き抜かれたご人生を追憶、感謝と共に御冥福を心よりお祈り申し上げます。 佐藤すなほ(S19・家)

若草 だより



若草総会レポート

支部総会終了後、約三十名がテーブルを囲み、第三回「若草」定例会が開催されました。

求めている若い人達にこの場を発表の機会として提供するという意見もだされました。

三年目を迎えた「若草」の活性化を願って、運営委員長の川口登美子姉よりテーマが提示され活発な意見交流がなされました。

若草の活動としては ①親睦の場

②行動を求める人への応援の場

③情報交換の場 などが挙げられました。

①季節にあった行事をそれぞれのライフスタイルで参加できるよう曜日などを考慮して実施していく

②一月実施のチャリティーコンサートの成功から、二〜三年に一度の定例化を。ただし、収益(活動基金)をあげるのが目的でなく、若い人達の参加を目的として、又活動の場を

③前から情報のネットワーク作りが言われていましたが、一人ひとりが「何をしたいか」「何が出来るか」「何を依頼したいか」などを何らかの形で集約し、情報交換が十分にできるようにして欲しいとの意見がだされました。特に今回の阪神・淡路大震災のおりハガキ見舞が会員として嬉しく心強かったとの感想が述べられ、「手伝える人が手伝いに」とか、就職氷河期も、この情報交換で打開へと、ネットワーク作りが大きな課題となってきました。

以上のように、現実を見据えながら、若い人達の参加が増えるような魅力ある活動を。一歩ずつで社会還元できる企画をこれからも考えていきたいと思われました。

石原 範子(S47・理動)

若草の活動報告と行事予定

年.月.日.曜日	内 容
H7.7.2(日)	第3回定例会(総会後)
9.9(土)	茶花とお煎茶を学びながらのおしゃべり会
10.8(日)	川西史跡めぐりハイキング 阪急宝塚線川西能勢口駅集合
11.29(木)	紅葉狩り(申し込みは11月25日締切 多胡まで) 阪急京都線長岡天神駅 10時集合
H8.1.27(土)	新年会(申し込みは1月10日締切 井上まで) 宝塚ホテル11時30分集合(阪急宝塚南口下車) 会費 4,000円
"2.29(木)	手作り会 尼崎女性センター 10時より(阪急武庫之荘)
"3.15(金)	手作り会 (2月と同じ)
"4.18(木)	能勢妙見山へハイキング(申し込みは4月10日締切 多胡まで) 能勢電川西能勢口駅 10時30分集合
"5.11(土)	大阪鶴見緑地(申し込み5月5日締切 石原まで) 大阪駅環状線ホーム中央付近 10時30分集合

①若草のマークのグリーンの旗のもとに集合 会員以外の方も
おさそい下さい

(運営委員) 川口登美子(0727-93-9624) 多胡京子(0727-66-3375)
井上千恵子(0727-92-0809) 石原範子(0727-92-0736)

白豪寺を訪ねて (H7・4・11)
重要文化財の記念館(講堂)前にて



楽しみましょう

今回の大震災を経験してから、人親の変わった方も多しと思えます。友達は財産です。まず出会いましょう。年令を超えて友達になりましょう。もう次の出会いが待ちどおしくなりませんか。子供さんの小さい方も工夫して参加して下さい。子育てで大変な中にも先が見えて来て今の気持ちに余裕が出来ると思えますよ。楽しい機会を一度でも多く作ろうではありませんか。

川口登美子(S39・家食)

煎茶と茶花を
学びながらおしゃべり会



尼崎女性センターにて(H7.9.9)

九月九日、やっと猛暑も過ぎてホッとしたところで、佐保会員やその友人も一緒に約三十人が尼崎女性センターに集いました。売茶流の教授、石田佳影先生に教わりながら十一時から四時頃まで、楽しいひとときを待ちました。

当日の雅題は「華甲」で菊を花器に生けてその側に蟹の置物を置くこと。還暦の祝いとなるそうです。

先生に煎茶のお点前をしていただきながら、美味しいお茶の入れ方や色々なことを教わりました。

席上、ある方が還暦とは「華寿」ともいって、花の人生の始まりなのだと話されたり、お菓子とお茶をいただきながら、和気あいあいの一日

でございました。

井上千恵子(S38・家被)

戦後五十年を迎えて

時と共に重要な歴史も過去に押しやられてゆく
貴重な証言を先輩の方々に記して頂きました

幼い子らに 支えられて

日下 初子（T15・文）

夫は、判事の職につき「天皇の名において仕事をしている」という誇りがありました。しかしこの戦争という時代に兵役の義務をまぬがれてるのが恥でした。それで職を退き、軍属として南方の占領地に出かけました。

昭和十七年九月でした。

彼は勇躍出征しましたが、残った子供は小学六年生の長男、次男は四才、その間に娘が二人いて、家は阪



卒寿祝の奈良扇子を手にして

神間の武庫川の下流にありました。

母校の松陰高女では、週に二、三日手伝いに来ないかというのでよるこんで行くことにしました。阪神電車を岩屋でおりて、青谷まで二キロあまり北に向って歩きました。それに次男がついて来るのです。四才を過ぎたばかりの幼児でした。歩かせることはいいのですが食べ物がないのです。

お昼になってひらくお弁当も、まごとのように少しですけど、嬉しそうに食べました。同僚の友人がとさどき何か少し分けてくれました。それは嬉しく、ありがたく……

帰り道で思いがけなく、オカラを売っていたこともあったので、又、何か？ と思って、青谷から三宮まで歩いた事もありました。

小学生の娘たちも、少しの食料をわけ合って、きげんよい毎日でした。長男はわがままで普通の学校に向かない子でしたから、東京にある羽仁もと子女史の自由学園にお願いしてありました。それが、病氣だから、

とて帰されてきました。顔色は土のようで、むくんでいます。足も。栄養失調です。学園でもこんな育ち盛りの少年を何十人か預ってヤミをしないで育てるのは出来ることではありません。当然です。よくがまんできたね！と私は涙です。

けれども、我が家にも何もありません。動物性蛋白質補給のために、私は自分の身を削いで、焼いて食べさせたい……とも思いましたが……やはりそんなことは出来ません。

米軍のB29が隊を組んで大阪湾にも飛来し空襲がたびたびになりました。潮岬から紀伊水道に向うと警戒警報、大阪湾に入りかけると空襲警報が鳴りひびきます。どこかに爆弾とか焼夷弾を落として去るのです。

長男は「お母さんや妹たちを、あんな無惨な目に会わせるのはたまらない。家が焼けたらとも消せない。この小さな物置を残すことにしよう」などと自分の身はかまわないで、あれこれと考えて働いてくれるのでした。

マライ方面に行った夫の方は、大本営発表しか知らないの、いつも「我が方損害軽微」万才！でした。今になって思うと、戦争はばかばかしいやなことですね。

新制中学を省みて

近藤 房子（S6・文）

終戦翌年の昭和二十一年、岡山で主人が逝き、子供を連れて帰神、弟の所に居候中に、偶然にも、小泉ハツセ姉にお逢いして「佐保会においてよ」とお誘い受けたのが十幾年ぶりの支部への再びの御縁の始まりとなりました。

早速先輩の推薦で新中の校長の要請を受け、幸にも二十三年四月より創立された漢中学に就任する事になりました。

九月になってもまだ校舎はなく、近くの平野と漢山の小学校に別れての仮住居でした。校長と教頭は旧中等学校より、小学校からのベテランも数人。他は主として、専門学校出の若い方にその他神主さん、天理教さん、僧籍の方も居られ、職員室の雰囲気はなごやかで話題も豊富、よい勉強をさせていただきました。

戦後、男女平等で給料の差がなくなったのは、古くからの先生には面白くなく、その上、女が平気で意見を述べるなど頼にさわるらしく、嫌味を聞くことが、はじめはありまし

た。

とにかく新民主教育と言うので皆手さぐり、教材なども各自で余分にプリントを配ったり意欲的に活動しました。娘時代に少し神戸女学院に勤めた経験もあり、何ら事新しく感じることもありませんでした。

秋も終りに、本館一棟、別棟の便所が完成しました。学校が出来たとどんなに喜びましたことか！

落成を記念して、父兄も一つになって色々持ち寄りバザーが盛大に催されました。我等の学校、漢中学生たとの自覚が生徒等に芽ばえて参りましたが、校舎が出来、机だけは入りまは石ころやデコボコのままでした。しかし生徒は自分等で、県立病院より、大きなローラーを借りて来て、テニス・コートを作り上げました。

教室では男女ともに糠袋など持ち寄り、競争で板の廊下磨きがはじまりました。一クラスの生徒は七十人近くもあり、そのうち父親の居ない子が三分の一近くで、母子家庭となった私には思い深いものがありました。

給食のない中学ではお昼は家に帰しました。お茶目な男生徒が、音楽の若い女の先生に「おかゆが熱くて食べられませんでした」と畏（おそ）まって遅刻を謝った……話もあります。

教師と生徒等の間は親しく、ことに若い方等とは友達どうしのような感じでした。ある生徒等は休み時間や放課後には何となく職員室に遊びにやってくるのです。こちらにも雑用など気安く手伝わってもらったり致しました。

進駐軍のお達しとかで、号令をかけて整列や団体行進など出来ません。代りに体操はフォーク・ダンスをやらせました。男女手をつなぎ輪になっ

て踊るのです。当時男女生徒が手をつなぐなど大変なことでした。進駐軍の視察があると言うので、しまいは校長まで出て来て「手をつなげ」と注意しまわったのを思い出します。

卒業後の進路は、優秀な生徒等が就職したり、工業や商業高校に進みました。中でも川崎や三菱などは難しく、担任も一番心を使いました。

満足な食もなく、有り合わせの物を着、何もかも不自由でした。しかし、彼等は、不平を口にするより、自分等の工夫で乗り切ろうと頑張りました。とにかく若い中学生にとっ

ても、日本が負けたことは大きな痛手だったのです。世界史上大戦争で敗れた国はやがて滅んでいっている

ただ一國スエーデンだけが復興している。我らもスエーデンに習おう。決して日本を滅ぼしてはならぬと心に決めて居りました。

戦後五十年、今この豊かさの中で省みますと、何と懐かしく、又忘れてはならぬ尊い事に思えてなりませ

戦災、子育て、震災

泣くにも泣けず

魚崎 茂子 (S10・理)

この度の地震で魚崎の私の家は全壊しました。佐保会より多額のお見舞いを頂き厚く御礼申し上げます。

地震直後とび起き玄関の戸を開けました。これは母の訓えで、建具が動かなくなるからです。夜が明けて見れば近所の家も殆ど全壊、私の枕元の懐中電燈もとんでゆき、貴重品

袋もとっさの時は持ち出せず、家は外部だけで中は無茶苦茶、あの中をどうして逃げられたか不思議です。

二日間は学校に避難し、コンクリートの廊下に毛布を敷いて寝ました。十九日に五時間かかり大阪の息子の嫁のさに移りました。奈良時代の友人(故人)宅です

丁度五十年前の昭和二十年、この時私の家は石屋川とJRの交差している辺りにありました。五月十四日、

深江浜の川西航空機の工場に米機爆弾攻撃があり大きな被害を受けまし

た。本山駅のすぐ南の国道二号線にも爆弾が落ち不通に。このあたりは今度の地震でもひどい被害でした。

五月のその日は工場だけでなく、阪神大空襲で沢山の焼夷弾であのあたりは多くの民家が焼き尽くされま

した。命は助かりましたが、今晚この子ら(小一の男の子と弟二人)をどうしようか。県三女(現御影高)が高羽小を借りていて、とりあえずそこ

に到着しました。配給のもので子供に何とか不自由させないでいました。近くに空家が出来てそこに入り空襲

から逃げながら終戦を相住いで迎えました。父はショックで十二月に死にました。主人は赤紙(召集令状)

でいったっきり(戦死)母と子供三人のこりりましたが、母の実家の静岡

県へ私を残して終戦後引揚げました。静岡県は火山灰の地でお米は出来

ませんが、さつまいもの産地、子供達は充分満腹になったはず、又祖母

から古い着物を沢山いただきそれをほどこして縫いで洋服にして着せました。このように衣食には何とか恵

まれましたが、一番困ったのは「住」の問題でした。私も静岡へ転動を考

えたのですがだめになり、今度は神戸で家さがしです。住宅の数は千三百人ぐらい行って三十戸ほどしか当

たりません。中にはくじが当たるとその家を売ってお金に換えている人もいたそうです。

昭和二十三年によく県営住宅が当り、子供達と一緒に暮らせるようになりまし。その後子供の成長と共に建増し、又子供の学費のため、

私は昼は学校、夜も、夜中も、アルバイトをしてようやく子供達もそれぞれ家庭を持ちました。

公立に十八年、私立(親和)に二十三年、初めからでは四十九年六か月、講師一年半。私もようやくゆっ

くりしたところにこの苦勞して建てた家が地震で壊されました。泣くにも泣けない状態です。今の高齢者の中には戦争で大きな被害をうけ、戦中戦後と一生懸命働いて現在お一人の方も多しと思いま

左 魚崎茂子姉、八木静子姉と



におびえ、又朝五時過ぎになれば眼がさめます。今は頭が真白です。つまらない事ばかり書きました。あしからず

<お若い方へご参考までに> 地震とどちらが? 比較して下さい。

第2次大戦最後の年

昭和20年1月3日より同年6月5日までの半年間で神戸市内の造船所、航空機工場、製鋼所等有数の軍需工場および日本屈指の港湾設備等及び、山と海に挟まれた都市が100回以上絨毯爆撃され、灰燼に帰した。米軍は「もう、神戸はこれ以上爆撃の必要がない」と攻撃目標からはずしてしまったという。爆撃の主なもの

2月4日(昼間)	112機 爆弾50発 焼夷弾3696発	造船所・民家1800戸死者26名
3月17日(夜間)	69機 油脂焼夷弾 33952発	市内の西半分 全半壊約50000戸死者2598名 負傷者8558名
6月5日(早朝)	531機 油脂焼夷弾3132発	市の東半分 全焼全壊55368戸死者3184名 重軽傷5824名 (米軍記録による「日本空襲」草思社 132頁より)

ソ連参戦の日から 引き揚げる迄

坪根 ミキ (S16・日理)



敗北の色濃くなった昭和二十年八月八日、ソ連は対日宣戦を布告、満州全域(現中国東北部)に進撃を開始したのである。北辺の日本人は戦火を逃れ南へ南へと苦難の逃避行を余儀なくされたのである。

当時私は鞍山の満州製鉄(旧昭和製鋼所)の自宅で防空訓練に明け暮れる毎日を送っていた。然しその日から鞍山が戦場になった時の対策が連日連夜練られ、非戦闘員は戦火を免れると思われるところに避難し、最後の時は爆死する、残った者は徹底抗戦すると言う事であった。そして希望者には背酸カリが配られ、避難する者、残る者、夫々の準備に大童であった。焦りと不安の交錯する中で終戦を迎える事になり家族の離散は避けられたのであった。

国境を越えたソ連兵は掠奪、婦女

暴行、抵抗する者は殺害するといった有様で、北部の女性達は頭髪を切り男装して難を逃れるのに必死であった。

鞍山では岸本理事長(陸軍大将で最後の東京市長)が社員を一堂に集め「製鉄全設備の明け渡しには赤穂開城の古知に倣え」と涙して諭され、進駐してくる(ソ連)兵に立派な宿舎や娯楽室まで提供される等、見事な対応が治安をよくしたのであった。

来鞍した(ソ連)技術将校の命により会社はフル稼働させられ、其の主たる製鉄機能の三分の二の設備を十一月の期日迄に撤去移す事になった。軍の厳しい監視の下に、従業員、戦時中から応援に来ていた兵士達は昼夜兼行、血の出る様な作業を一ヶ月余も強要され無事ノルマをはたせ

たのであった。撤去作業が終わりソ連軍の退去と同時に中共軍が進駐し、理事長夫妻は監禁の身となられた。間もなく夫人は旧鞍山中学の一室で自決され、

理事長は夫人の死を御存じないまま各地を転々と移動させられ最後は見護る人もなくデナムス近郊で永眠された由である。

当時、中国は国府と中共が相争う状態度々使役に駆り出されて来た。海城の国府軍を攻略する為に十日間も連行された時の事であるが、任務を終え白旗を先頭に帰路を急ぐ隊列に流れ弾が当たり先輩の方を即死させたのである。一緒に出迎えていた奥様がショックで倒れそうになられ私が御宅迄お供をしたのであるが御遺体はまだ温かく痛ましい限りであった。又人民裁判が各地で行われ掠奪も横行する様になった。

きめ「あると思うなら家中を捜して下さい」と聞き直ると後で出頭する様にと行って帰ってくれて事なきを得たのである。

二十一年四月頃になって国府軍が制圧する様になり市内は平静をとり戻し引き揚げが現実となって来た。然し夫が会社復興要員として留用され一年半遅れて帰国する事になった。奉天で各地からの引揚者と合流し車中の人となった。手作りの弁当やお八つを仲よく分けあって味くらべ。

車内は帰国の喜びで一杯であった。突然列車が大きく揺れて止まった。中共軍が線路を爆破したのである。修理に2、3日も掛り動き出したかと思えば又ストップで、錦州の近くでは十余日も立往生を強いられたのである。非常食も底をつき各班毎に自炊をする事にした。川原でかまどを作り高粱や農夫にもらった野菜くずで雑炊を作って飢えを凌ぐ事にした。体調を悪くした人が出はじめ、元氣だった長男も消化不良になり苦労が一つ増えた。日中は此所が戦場になっている事をあまり意識せずすんだのであるが夜になると銃声が聞こえ危険であった。

の中に旧満州重工業総裁高崎達之助氏がおられ、氏が中国の要人に交渉して下さって燃料が確保されたのである。

戦も国府軍の勝利に終わり無事口島へ到着する事が出来た。岸壁では興安丸が我々の到着を今か今かと待っていてくれた。病人以外の方は船底の決められた場所に落ち着く事になった。

やがて船は静かに岸壁を離れた。誰も追ってくる事が出来ない。もう迫害を受ける事はないのである。安全である事の幸せをかみしめた一瞬であった。船内では解放の喜びを味わうかの様に幼児達がはしゃぎ廻り母親がたしなめながら追っかけてり微笑ましい光景も見られるようになった。



報奨金目的の密告をされる事が多くなり、我が家も「将校だったから銃を持って」と密告され中共兵が捜索に来た。私は咄嗟に長男を抱いて浴槽にかくれ蓋をして息をひそめたが息子は声を出し兵士は長靴でドアを蹴り出したので覚悟を

一方口島では引き揚げ船が長期停泊の為に燃料不足となり至急帰国して補給しなくてはならない状態になっていた。然し、幸いな事に一行

途、中、薬皇島沖と思われる所で小舟に乗り換えて来た難民の方達を乗せた船は佐世保港へと急いだ。然し残念な事に夢に迄見た故国の土を踏む事なく船内で亡くなられた方があったのである。お棺が紺碧の海に沈められ、哀悼の汽笛の音を聞きながら黙祷を捧げた時は涙が止めどなく流れた。やがて祖國の島影が見え隠れするようになり、まさに万感胸に迫る思いであった。昭和二十二年の晩秋であった。

「死」に囲われた日

中村 京子 (S32・理物)

在満国民学校五年生の時、私はあの重大放送を聞きました。家庭の金属類まで供出されていた頃、次から次へ続く大量の敵機襲来の記事から、日米の桁違いの資源の差を痛感させられていました。

東京大空襲から逃れて満洲に来た人もあり、神風特攻隊が紙面に出た頃、母はその奇跡を説き、父はルーズベルトの急逝を日本有利と解説しました。母の説も父の論も私は飲み込めず、私の中ではB29と竹槍の練習の惨めな対比に日毎に不安をつのらせていました。

父は満洲の清原という町の国民学校長でした。重大放送のあと、日本はどうなるかしつこく聞く私。校庭の片隅で特別大きな実をつけたカボチャの前で、ポツダム宣言や無条件

の説明をした後、父は「無条件降伏だからな」と。

「日本人は皆死んでしまう」が私の理解でした。どんな風に殺されるのだろう。死ぬ時はどれくらいの間息苦しいのだろう、皆が死ぬのだから自分も耐えられるだろう。私にとって終戦は突然の死の囲みでした。西日に輝いている大きなカボチャが生

き生きとして、なぜかとても羨ましく、何度も涙が出そうになりました。その夜、駅の方から群衆のざわめきに「ソ連の兵隊か」と父が出て行った時、私は死ぬ時が来たかと身を引

き締めました。すぐ中国の人が私たちを呼びに来て、私と中の妹を彼らの農作業小屋に隠し、歩き初めたばかりの妹は中国人の奥さんに抱かれています。駅の騒ぎはソ連兵でなく、北から逃げて来た日本人の汽車の到着でした。

「逃げる時には小さい子供は置いて行きなさい。生きのびて世の中が落ちついた時に連れに来ればいい。それまで預かるから」

中国人の奥さんが母に言ったのを聞いて「死の囲み」が壊された感じでした。「逃げる」「逃げて生きのびて世の中が落ち着く」という生きる道があることを、中国の人が教えてくれたのです。

翌日、拳銃を持った中国兵らしい

五、六人がなだれ込み、私たちに銃口を向けました。「逃げなさい」小さな声で怒ったように母は言い、開いていた窓にめくくばせしました。窓辺により下を見ると、三本の拳銃が窓際で光りました。

私と視線の合った兵士の目は、真赤に充血し眼球は今にも飛び出しそうでした。

両手を挙げ、銃口を向けられた父が出て行くと、銃声が起る一瞬に私の全身全霊は縛られている思いでした。が、銃声はなく「武器を持っていないか聞かれた」と、父は帰って来ました。

四日続いて町には騒動が起り、次々に襲われて全て持ち去られていきま

す。父は見知らぬ人々から家から学校に逃れるように、更にその夜学校を出るように言われ、翌早朝、私たちは満鉄の社宅に移りました。その日の午後、汽車が仕立てられ、南の町、撫順へ逃れたのですが、町中の日本人に連絡してくれたのは中国の人でした。父のかつての任地、撫順で私たちは知り合いの日本人の世話になりました。が、集団の多くの人は伝染病で死にました。

ソ連兵進駐期、中国内戦期を撫順で過ごし日本へは翌年六月帰還しました。

神風を信じていた母は日の丸を揚

げた引き揚げ船を見ても、どこに連れていかれるか分からない、と不安に落ち込んでいました。それから五十年、自由に物事を考

えられる時代になってもなお、噂や不確かな情報に惑わされる現象は後を断ちそうにありません。

短歌

戦後五十年に想う

田邊 幸子 (S17・文)

われ二十日本敗るを思いつつなすなくて蒔を植えていた

この日のみ核思い出す人もあり忘れ易きよ日本人みな (八月六日)

幾そたび広島の人ら叫ぶとも核なき世界遂に来らじ

食べられもせぬ花ばかり赤くして民飢えていき敗戦の年

夾竹桃カンナのうぜん敗戦の日に咲きし花みな紅かりき

敗戦五十年を迎えて

内匠 慶子 (S18・保)

阪神大震災に引き続き、オウム真理教のサリン事件、全日空機の乗っ取り事件など、未曾有の出来ごとが相次ぎ、うかうかしておれない今日この頃となりました。

さて、私が幼児教育につきました

のは、昭和十八年三月奈良女高師保母科を卒業して、四月から神戸市立楠幼稚園に勤めたのがそのはじまりでした。ご縁というのには不思議なもので、私の母も若い頃、この幼稚園で同じ園長先生のもとでお勤めしておりました。私は、良妻賢母を夢みつつ、戦争のために違った道を歩みはじめたのです。けれども、もともと子どもが好きで、幼児教育に興味を持っていましたので、希望をもって四才の子ども達と夢中の日々を過



ごしております。

ところが、その頃太平洋戦争が次第にはげしくなり、日本国土にもB29が来襲するようになり、園児の母親の中にも、戦争未亡人で働きに行く方も出て来ました。夕方お迎えに来られる途に空襲が来て、その子どもと共に防空壕に入ったこともあり、女性もありません。その頃から、女性の職場である幼稚園でも宿直をするようになり、昭和二十年三月十七日、「今日は神戸が危い。」という日に私は宿直に当りました。「お母さん！今日は私帰れないかも知れないよ。」と、その朝、水盃で母と別れたのを思い出します。

その夜はやはり空襲になりました。お年を召したO先生とご一緒でしたから、すべてその先生の指示に従って、リュックサックの中に重要書類を入れて、はじめは防空壕へ入りました。やがて、パンパンパンパンと、園内にも焼夷弾が落ちはじめました。さあ大変！私たちは防空壕をとび出して、落ちてくる焼夷弾の火をパンパン火叩きで消していましたが、もう園舎にも火が移り、ぼうぼうと真赤な火をふいています。卒園式を翌日に控えた我が園、あの部屋の中には園児達の修了証書が……。一瞬にして灰になる、早く消さなければと思っても、も早や手のつけようもなくな

り、隣の湊川小学校の屋上で見張りをしておられた当直の先生が、「おい、その幼稚園の先生、危い！早く逃げろ。」と教えて下さったので、私達は外へとび出しました。そこから一面火の海で、被災者が家財道具を荷車に積んで、ぞろぞろとバス道を南へ南へ、私達は所々にある防火用水を頭からかけながら、北へ北へと進みます。ふと見上げると敵の戦闘機が……。あつという間に私達は機銃掃射を受けました。しかし、20mほど離れていたのが、命だけは救われたのです。その日は交通機関もかなりの被害を受け、市の西半分塩屋迄不通になっていましたので、そこ迄歩いて明石の家に帰りました。前夜海岸に出て、天まで焦がす神戸の火を見て心配していた母は、生きて帰った私を抱いて喜びました。

それから、七月七日には、私宅も全焼して無一物となったので、西林寺というお寺の本堂の片隅に家族五人が住まわせてもらいました。母は播磨幼稚園の再建に、日夜かけ回り、私は明石師範の附属幼稚園で、戦後の教育の研究会に明け暮れました。姉は戦前から患っていた背髄カリエスが再発して、生死の間をさまよっていました。弟達は二人いますが、一人は中学生で勉強好き、受験勉強の傍ら、よく姉の看病もしてくれま

した。もう一人の小学生の弟は、大自然を友としてよく遊び、海では小さな魚を突いて持ち帰り、「これ晩ごはんのお菜やで！」と笑わせました。我が家は、まる裸で、どん底生活ではありませんが、笑いの絶えない家でありました。

今年（昭和二十年）は戦後五十年を迎え、私も五十年間のお勤めを終えて七十一才を迎えました。今になって、親の恩、周囲の方々の恩、そして私を育ててくれた仕事に感謝の気持ちでいっぱいです。



左端が内匠慶子姉

学生の勤労働員

日記より

中野 久子 (S29・理数)

昭和十九年五月八日(月)晴

今日は大詔奉戴日(註)だ。朝早くから国旗を立てた。国旗を見ると、私は何だか心が引きしめる感じがする。いかにもよく大和心に似つかわしい国旗。私は大好きだ。

しての務めを果そうと思った。

昭和二十年六月一日(月)晴

今日、工場で作業についてからしばらくたった時、警戒警報が発令された。私達は作業を中止し帰宅した。防空壕へ待避したとたん、しゅしゅと火花の燃えるような音、続いて、どーんと地響き起こる。(敵機は)焼夷弾と爆弾とを混合して、投弾する。ほんとに長い2時間だった。死傷者も大分出たらしい。私達も近所の人々もみんな元氣な顔を嫌から出した時、私はほんとによかった。としみじみ思った。それと共に、今後の空襲にもっともっと強い覚悟が必要だと思っ

昭和二十年八月十五日(月)晴後曇

今日の正午の報道で、とうとう天皇陛下が詔書をお下しになり屈伏せねばならぬの止むなきに至った事を仰せいだされた事が放送された。我等一億民草は、唯々、大御心をお察しするだに感涙するのみである。

私は、唯、皇国護持の為、一生懸命働かねばならぬと思った。

註

昭和十六年十二月八日に宣戦布告、以来毎月八日大詔とは天皇のお言葉

阪神・淡路大震災

一月十七日午前五時四十六分あまりにも突然に

大震災に遭遇して

森下 敏子 (S38・家庭)

も残っていませんでした。神戸の壊滅状態のどまん中の者に情報のほしさ、身を以て知りました。

東灘区のJR住吉駅すぐ南のマンションで被災、一瞬は死と隣合せの自分を感じました。夜明けの薄明りの中のわが家の惨状、立っている物はことごとく倒れ、ガラスの類は殆ど割れ、足の踏み場もなし。とりあえず一歩踏み出すためガラスを拾うことから始まった。

電話の不通で公衆電話ならかけられると走ったときは長蛇の列、自分の番が回って来た時は電話器が硬貨で満杯でかけられなかったり。幹線道路が車で溢れ、とくに震災後二三日は通行規制がなかったため、救急車や消防車まで一般車両と共に立ち往生でした。国道二号線は止まったままの車の列と、東へ移動する歩行者の列でごった返してました。建物は無残にくずれて歩道を塞ぎ、ついさっきまで生活していた家具や寝具、文房具や玩具までもが覆うすべもなく姿をさらしています。どこからかガスのもれる臭いがする。と思った途端、目の前を戸板にのせた遺体が毛布にくるまれて運ばれてゆく。まさに地獄絵……。

職場(ポルトアイランドの神戸女子短大)に復帰すべくも交通の断絶はJR三宮に出るのも大変、住吉から難までの代替バスに長く苦勞しました。(阪急も阪神も不通)

避難所暮らしの方、仮設住宅、仮設店舗等や々と営業を再開の方、マンション取り壊しについて住民の同意が得られないところなど、震災の後始末はまだ見当がつかえません。しかし、この震災を通して最も認識を新たにすることは、若い人たちを中心にした大勢のボランティアの活躍でした。これからの日本も彼等が支えてくれると思うと自然発生的に生じたボランティアのパワーを大切に育ててゆきたいものだと思います。今、この様に落ちついて当時のことを振り返ることに感謝しています。

母はピアノの下敷きに
橋本 晶子 (S57・理化)

ルのようなお風呂で、シャワーも完備し、湯温も熱く、よく温まりました。自衛隊に抱いていたイメージがこの震災を契機に随分変わり、今では感謝の気持ち一杯です。入浴の順番待ちは一時間ほどでしたが、この間に避難所にいる方達と一緒に震災の恐ろしさや、その後の家の取り壊しなどさまざまな話をすることが出来、口頃出来ない得難い体験をさせてもらいました。

母は震災七の激震地、東灘区深江本町に住んでいます。高速道路はまるで板チョコの様に割れ、線路は曲がりくねり、道を塞ぎ折れ重なる様に倒れた家屋。子どもの通う小学校は避難所に、教室は遺体安置所になりました。

六甲山の裏側になる鈴蘭台のこちらではお陰様で被害も大してなく幸いです。それで震災直後は被災者の方をお招きして、室内プールをつかいお風呂のサービスをして大勢の方々に大変喜ばれ、また各地から若いボランティアの方々の基地としてその場を提供しました。今では元の静けさに戻り、それぞれグループ活動などに精を出しております。私も俳句の会、コーラスの会などで勉強いたしております。

二階堂 孝 (S12・保)

ゆうゆうの里から

つけてくれた多くの友人たち。あの震災でさえ奪えなかったすばらしい財産です。物はなくても、不便でも心はあたたかかった……

被災した全ての人が心から笑える日も近いと信じています。

冬籠る五千に余る人の喪に
地震の難のがれ給ひし難かざる

東灘区のJR住吉駅すぐ南のマンションで被災、一瞬は死と隣合せの自分を感じました。夜明けの薄明りの中のわが家の惨状、立っている物はことごとく倒れ、ガラスの類は殆ど割れ、足の踏み場もなし。とりあえず一歩踏み出すためガラスを拾うことから始まった。

私は家に日頃から余分なものを置かない主義だったため、乾電池、水、非常食、カセットコンロ何一つ無く、あわてて近くに買いに出た頃には何

問題で、電気、水道、ガスの順に回復しましたが、中でも家族のお風呂は大変でした。西に銭湯があると聞いては出かけ、東に自衛隊の風呂があると聞いては出かける毎日でした。カンボジアで使用したテント地のプー

その後、父は経営する会社に泊り込み、夫と妹は自宅に残りそれぞれ会社に通勤。私は母と子どもと三人で二か月の間、大阪に避難しました。

しかし、ライフラインが断たれた確な情報もない不安の中で、皆が助け合いながら争いもなく過ごせたこと。余震が続く中、危険をものともせず、大きなリュックを背負い駆け

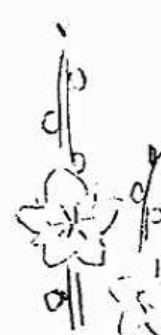


カンボジアで使用したテント地のプー

カンボジアで使用したテント地のプー

カンボジアで使用したテント地のプー

カンボジアで使用したテント地のプー



短歌



笹原 順子 (S32・文史)

担任の生徒残らず無事なるをまづは確かむ地震揺れたる日
崩れかけしわが家の門に蜘蛛梅が清く匂へり常に変はらず
活かす、棄てる、眩きながら選りてゆく潰えし家の慣れし品
ケセラセラ壊れし家に歌ひつつ寒月のもとひとり働く
燃え尽きし瓦礫の上に菊抱きて寒風の中の少女動かず
毛を焼かれ目の潰れたる猫の来て食を乞ふかもなぬ去りし街
水もらふ列を乱さぬ神戸っ子すぐ打ち解けて互ひを語る
震災の町を救ふと見よ友が国が世界が馳せ集ふをば
大書して壊滅の街に揚げあり「なまづなんかに負けるものか」と

西宮より川柳便り

長岡 加代 (S33・理数)

阪神大震災から2ヶ月。この付近は震度7、近所の家の半数が全壊ですが、わが家は住み続けられる程度の半壊、全員無事で、恵まれていました。大災害でしたが、共同体精神の復活、平時には見えてこなかった日本社会の特質の発見など、貴重な経験もしました。

家を失った外国人留学生一人と犬

一匹が家族に加わって、にぎやかになりました。家は修理にとりかかっています。工務店は、あちこち掛け持ちでかなり日数がかかりそうです。復興したらおいで下さい。

家半壊 老後全壊 皆元氣
その瞬間に思ったので夫婦も壊れた中途半端で悟れない
震度七弱音は吐かぬ古狸
災害を川柳にして叱られる

震災と家族と

古田貴美子 (S57・家徳)

震災時はいろんな方からお見舞いを頂き有難うございました。私共は、三月まで親戚など二か所に分かれて避難しておりましたが、幸いにも元の湊町にも近い兵庫町のマンションに引越す事ができ、今ではほぼ普通の生活にもどっています。当時は子供たち(小一、小四)は遊ぶ場所もなく、地震の影響もあってかちよとした事故が続きました。

以前に非常勤講師などした事もありますが、現在は子どもも幼いし家族に気を配りたく、半年を過ぎて気もゆるみがちの今、地震に遭遇して生き方や、暮らし方について考えたことを忘れないようにしたいと思っています。

事務局震災に遭う

この度の大地震で前副支部長内山美智子姉宅並びに、前事務局長立花紀子姉のマンション(東灘区)も大変な被害を受けられました。

このとき四年間、ご家族の協力を得てパソコンにインプットされたわが兵庫支部のデータは立花姉宅で奇跡的に無傷だったことは不幸中の幸いでした。

一月の末には早くも支部、若草の連名でのお見舞状が届き、被災地会員一同どれだけ勇気づけられたことでしょうか。

思い出せば戦後、原田中学、神戸市一高女、親和学園、須磨女子校ご勤務グループの皆様につき、上田ユクエ姉、宮田ヨシ子姉、内山美智子姉と連絡とお世話になりました事務局は、こうして守られ新時代のシステムで現在に引継がれております。又、地区リーダーの方々も震災調査に努力され、苦難の時に相互の交流を果たされました。

この大震災では、余りにも悲惨なことが多くありましたが、会員の絆は一層強く深められました。復興に向かって頑張りましょう。

当支部では、会員で被災地域居住会員七百余名の中で残念ながら御一方を失いました。

川端悠記子様は、お住いが阪神電車御影駅の南、酒造会社が軒を接し阪神高速道路がすぐ北側を走る激震地帯の旧家の木造であったため一瞬に倒壊、即死されました。

朝倉純子様は灘区石屋川の上流桜ヶ丘マンションの八階で倒れてきた本箱や本の下敷になり、一応は脱出されたものの、十日後亡くなられました。

全壊、半壊の方は百余名を越し殆ど皆様何らかの被害を蒙りました。家屋の損壊や、心労によるお疲れなど、若い人から高令の方に至るまで言い尽くせない苦難に心よりお見舞いを申し上げます。その中で高令のG姉は倒壊家屋の中から救出された後、元気を回復され、総会その他の会合に笑顔のご出席に頭の下る思いが致します。

末筆ながら、全国の佐保会ご有志皆様のご支援、お励ましに厚く感謝いたします。



おたより

あ・ら・か・る・と

楽しい俳句俳画

遊びと私

那須 瑞子 (S23・臨家)

川口登美子 (S39・家食)



高校教師 二年で退職、結婚、一男一女を育てながら、庭の草花等を写生して楽しむ
専業主婦時代が二十年近く続き、ふと赤松柳史先生に入門致しましたのが四十才頃でございました。

好きな道は一筋に歩めるものがございます。その間、本名瑞子が画号「青魚」に变身、句集一、俳画一を出版、そして俳画二号目は、来春店頭に並ぶ事と存じます。

又、NHK学園西宮教室、新神戸オリエンタルホテル、ダイナースクラブ、その他の教室から要請を頂き、指導致して居ります。

人生とは不思議なものでございます。家政科を卒業して、俳句俳画を指導する立場になりますとは、思ひもかけぬ出来事でございます。未曾有の物心共に豊かで変化に富んだ時代を、心ゆく迄心をこめて味わいましょう。若く聡い眼でノ

和風住宅を設計して

今、家庭科教育は……

川田 多栄 (S45・家住)

大野 恭子 (S45・家住)

卒業後二十数年、夫が設計事務所をしており、私も設計に携わってまいりました。私は主に木造住宅を手掛けておりますが、近年和風住宅を建てる方が少なく、敷地、建築費、生活様式の変化などの要因があるのでしょうか、暮らしぶりにゆとりのある人が少なくなつたことも一因かと思われま

平成六年度から、家庭科が、男女必修となり、その追い風を受け、この四月から、県立の工業高校で家庭科を教えております。勤務校は、機械科、電気科、電子科、建築科があり、各学年二四〇名位です。女子生徒は、建築科に六名(各学年)程で、あとは男子生徒です。昨年九月に、

四季の移り変わりに合わせて部屋の調度、設えを変え、その折々の風情を楽しむ暮らしをするゆとりがなくなつてきつたように思います。自然をコントロールするのではなく、自然と折り合いをつけ、楽しんでゆくゆとりがなくなつてきつたように思います。

私の小・中・高時代は、家庭科は、生活に密着した教科として勉強してきましたが、今や人生八十年の時代を迎え、明日の男女共生社会を目指して、いかに生きるべきかを考える教科に変貌しており、私自身、びっくりしました。

工事の面からも阪神大震災を機に在来工法の木造より、プレハブや、ツーバイフォーの住宅が多くなりました。プロの職人の技術が不要な建物が多くなると、伝統的な大工さんの技術を伝えていく場も少なくなり惜しいと思

それは一九七〇年代のウーマンリブ運動の女権拡張に端を発し、社会の急激な変化は、家庭生活にも大きな影響を与え、男性も仕事ばかりでなく、まず、生活者としての自立を求められ、男性も女性も、仕事も家庭もという考えに基づいております。私自身、大学を卒業してから、プ

ボツ仕事をしております。末輩ながらこの度の震災に被害を受けられた方々にお見舞い申し上げます。一日も早く心身が回復され、生活も立ち直られますようお願いいたします。

新卒の女子学生は、就職氷河期と言われておりますが、子育てが一段落した時に、フルタイムで、働く「場」と「時間」があることを幸せに思います。教育の現場では、授業をはじめ学校行事、会議などすべてが私にとつて新鮮です。

人なつこい、若さあふれる生徒達のリアクションがおもしろく、今までの社会経験、生活体験を通して、私なりの持ち味を出して、「教える」ことを積み重ねていきたいと考えております。

「花消過 文学に見る花」
川口 汐子 (S19・文)

「故里とは」 「福長村物語」
目下 はつ (T15・文)

「ひとすじの道を」 播磨で育つた文人たち
「教職五十年精一杯」
岡村 はた (S19・理)

「暮らしをたがやす」
浅野 晶子 (S23・家)

「これで描ける俳句教室」
那須 瑞子 (S23・臨家)

同窓の縁

追野 幸 (S51・家食)

友川 康子 (S52・文園)

塾の子供たち

阪神大震災直後に出産!

仕事も子育てもしたい…

中島ひかる (S61・理数)

仕事と育児

松垣由美子 (H1・理物)

大学を卒業して早や二〇年になろうとしています。
卒業後、初めて兵庫県佐保会に出席しましたが、あまりにも立派で、激刺となさっている先輩の方々にすっかり佐保会が数居の高いものになりました。

私は十年程前から淡路島の北淡町で学習塾を開いています。今年一月十七日は生徒達の三学期の中間テスト初日の予定でした。午前五時四十分、突然の激震に襲われた時、試験勉強を終えて床に就いたばかりだった子や、入浴中の子もいたそうです。家が潰れ、家族をなくし、受験勉強どころでなくなった子供達でしたが、避難所や遠くの親類の家から休まずに塾に通って来ました。あれから六カ月たった今、あの時の受験生徒たちは全員揃って志望高校に入學し、元氣な新入生が入って来て、塾の教室にはまた活気が戻ってきました。

昭和六十一年四月に三菱電気に入社以来、九年間電子交換機的设计・開発を担当してきました。電子交換機とは、電話で話しをする時に動いている機械と考えていただければよいと思います。この九年間は男女の差別をほとんど(?)受けず、きびしく育てていただき残業もこなしたつ、あつという間に過ぎ去ったような気がします。

はじめまして。我家は主人、長女、二女、私の四大家族です。私は現在、専業主婦をしています。
大学を卒業して大企業に就職、三年前に職場結婚し、共働きをしていました。二年前に長女を出産後は、一年間育児休業を取得し、職場へ復帰しました。でも、仕事と育児の両立は、やはり、キツイ/私が担当していた仕事は、あるソフトの設計で、納期は半年後。時間のやりくりはいくらでもできる仕事でした。それでも何が起るかわからないのが会社。保育園とは別に、前もってベビーシッターを頼みました。それに、子供の急な発熱は、こちらの都合にあわせてくれません。いつ休んでもよいように、仕事の内容をメモして、机の上に置いて帰るなど、ちょっとした気配りは欠かせません。

たのめでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。
あれから一年。捨て置けばよいことを気にして、やめたことを後悔する時もあります。今は、二人の子どもと一緒にいる時間を大切にしたいと思っています。

その後、四人の子供の育児に追われ益々佐保会から遠のいていきました。また社会との関わりが薄れるのに焦りを覚え、末子の入園と同時にパート勤務をしました。履歴書を見せると、もって他に仕事があるでしょう……と言われたり、母親同志の付き合いも学歴がわかると近寄りたいたい人、という受け止め方をする人がいて、私にとって奈良女卒が重荷になっていました。

様々な個性を持つ微妙な年代の子供達と向き合うのは大変緊張しますが、最近では、大分肩の力も抜けて、ありのままにつき合える気持ちが出ています。卒業後も慕ってきってくれる生徒がいるのは嬉しいことです。

なぜ、このような気持ちになっているかと言うと、今年一月十九日に長男を出産し、現在来年一月十八日迄の育児休暇中で、ちょっと冷静に今までの自分、これからどうしていけばいいのか等、ふと産後のボーとした生活の中で折にふれふり返って見たところだからです。九年間つらいことうれいこと等たくさんありました。

赤ちゃんを阪神大震災にも負けず、無事出産できたこと、育児休業制度の実施がこの四月より開始されたこと(私の場合ちょうど四月から休業扱いでした)等、今となっては、どれもラッキーだったような気がします。

しかし、子供はとてもかわいいのだから、それとも私の配慮が足りなかつたのでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

しかし現在の非常勤講師(松蔭中学校)勤務も佐保会の名簿が縁でしたし、何よりもこの度の震災では、電話が通じるや否や、各地から安否を尋ねてくれる友達、そして私の無事を喜び涙する友の存在を考えると、奈良女を卒業できたことに感謝しているこの頃です。

赤ちゃんを阪神大震災にも負けず、無事出産できたこと、育児休業制度の実施がこの四月より開始されたこと(私の場合ちょうど四月から休業扱いでした)等、今となっては、どれもラッキーだったような気がします。

しかし、周囲の人は、頭では理解していても、自分の仕事が増えるのは御免というのが本音なのでしょう。か。それとも私の配慮が足りなかつたのでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

たのめでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

たのめでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

(長田区在住乍ら危うく類焼を免れました。)



しかし、子供はとてもかわいいのだから、それとも私の配慮が足りなかつたのでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

たのめでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

たのめでしょうか? 毎日定時で帰る私を見る目は氷のごとく、上司の言葉は、胸をグサッ。多少のことではビクともしない私でも、これではたまったものではありません。結局、復職後七ヶ月で退職するはめに。

IFUW国際会議

津村 直子 (S35・文教)

大学婦人協会の第二十五回国際会議が、八月十九日から七日間の日程で横浜市で開かれた。

「女性の未来は世界の未来」のスローガンのもと、海外五十二カ国からの四百余名を含む八百余名の参加者によって、女性や女兒、環境等の問題を活発に討議。

会場は女性の地位向上を目指す各国女性の熱気に包まれた。今回会議の結果を第四回国連世界女性会議に生かすべく、IFUWは代表団を北京会議に送っており、その成果が期待される。

開会式には、美智子皇后陛下が御臨席、美しい英語のスピーチをされ、衆院議長土井たか子氏の祝辞につづき、かけつけられた国連難民高等弁務官緒方貞子氏の貴重な講演を伺った。当支部より二名出席した。

新たな道、看護学を！

大宅 輝美 (H2・家生経)

明石の下宿先で被災しましたが、現在は、県立看護大学の学生として忙しい毎日を過ごしています。

母校での学生時代に私は特に、目的も見つけられず、クラブ活動に明け暮

れし、周りに流されるように就職しました。しかしその会社はバブルで倒産し、私は突然自分が何をなすべきか解らなくなっていました。今度こそ、目的のない就職はしたくないと思いましたが、

幸いにも、学部時代の恩師、長嶋先生がある大病院の小児心身症チームの方を紹介して下さい、その方が右も左も解らない私を「勉強したいなら」と、快く受け入れて下さいました。お手伝いさせていた中で、子どもの心と身体の関係が密接なことに関心をもち、しかし心は心理士、身体は医者と分離する傾向に、疑問をもち一個の人間として両面を捉えて子どもに近付きたいと願いながら、一年程たったある日、元婦長の方と話合いました。彼女は「看護を自分が目指したか、看護に対する思いを語って下さり、この時、私は自分が求めていたものは「これだ」と確信しました。そして関西に看護大学ができることを聞き、ただ、がむしゃらに勉強したので、何とか難関を突破し、現在、勉強、実習に明け暮れ……」

今回の地震では様々な人の思いに触れ、看護の重要性を実感、自分を深める貴重な体験ともなりました。生かされた者として何をなすべきか常に考えられる、そんな生き方が出来ればと思っています。

ひたむきな高校生と

郷 真由美 (H7・理数)

四月から高登学校の教員となり、あっという間に夏休みを迎えてしまいました。四カ月という時間は本当に早くたように思います。けれども一日一日を振り返ってみると、重たい日も、たくさんあったと思うのです。

私の勤務している高校は、明石にある、今年十二年度目の新しい学校です。総合選択制の校区なのでいろいろな個性を持った生徒が集まってきました。また明石という土地柄でしょうか、素直な生徒ばかりです。学校の雰囲気もよ

く、生徒指導で泣かされたことは、(今のところ、まだ)ありません。高校生は、ひたむきです。勉強は、イヤイヤ取り組んでいるにしても、部活も、そして恋愛にも、一生懸命です。体を壊すのではないかと、思えてきたりもします。

そんな、ひたむきな生徒に、出会ったとき、ある種のショックを受けます。私は、そこまで一生懸命やっているのだろうか……と。

平成7年度 新入会員紹介

氏名	学部	勤務先
石田久美子	家生経	特別養護老人ホーム喜楽園
亀谷千花	文国	県立伊丹北高校
西郷かおり	理数	進学(阪大大学院)
橋本裕子	文教	川村義肢師
福富澤直子	文体	県立三木高校(非)
豊田英美子	理情科	進学(奈女大学院理学研究科)
赤松由紀	文英	宗酒造師
郷真由美	理数	県立明石城西高校
上田敦子	理化	新日本証券
月江小かおり	文史	スカイハウジング
大山小夜	文社	進学(京大文修士)
横山佳奈	家食	エニチカ三幸
佐藤千秋	文教	
中井麻由美	理数	研神培子備校
橋本知子	家被	大阪モード学園(夜間部)
吉田恵	理物	ホシデン
後藤晶子	文社	進学(阪大文3回生に学士入学)
佐々木ひろみ	理情科	三菱重工
吉武あやこ	理情科	三菱電機マイコン機器ソフトウェア
金井陽子	家被	福島工業
森井亜紀子	文英	姫路市役所
上野美穂	文体	能力開発センター
森本佳代	文体	御三貴
小林真理子	文国	研神培子備校西宮校
須藤真基子	理化	神東塗料
谷みどり	理化	上野製薬(上野生物科学研究所)
川崎まみ	家被	(奈女大学院生)H6学部卒業
大学院		
井田瑞江	文修社	奈女大学院人間文化研究科
井屋島亜矢子	理修化	三田工業

私なりに、頑張っているつもりです。手を抜いているつもりは、あまりありません。けれども、まだ新任です。いくら頑張っても至らなくて当然と、最近、ひらき直っています。



H7.7.2 支部総会にて

驚いた三つの言葉

加藤 咲子 (T15・文)

只今卒寿のお祝を頂きまして有難く厚く御礼申しあげます。

卒後五十五年

佐藤 かね様

(T15・家)

井上 たみ様

(S15・家)

木造 邦子様

(S15・文)

苦瓜 恒子様

(S15・文)

田村美都子様

(S15・保)

福原 房子様

(S15・保)

福山 光子様

(S15・理)

山本 博子様

(S15・家)

大井 好子様

(S15・家)

渡辺 るい様

(S15・家)

大原 敏子様

(S15・特保)

田中 昌子様

(S15・保)

松本 澄子様

(S15・保)

森垣 恒子様

(S15・家)

佐保婦人学級平成7年度計画

H7・6・30	開講式	尼崎市立女性センター	浅野晶子支部長
7・20	震災を語る	"	長田鷹取教会神田裕神父
9・23	りんご狩り	JR朝霧駅集合	親睦旅行(台風で中止)
10・31	俳画入門	尼崎市立女性センター	那須瑞子姉
11・30	俳画入門	"	"
H8・1・25	習字(かな)	"	川口登美子姉
2・22	習字(かな)	"	"
3・21	閉講式	"	"

卒 寿

加藤 咲子様

(T15・文)

目下 はつ様

(T15・文)

佐藤みさほ様

(T15・文)

平成6年度事業報告

H6・4・19 第十二回佐保婦人学級開講式(舞子ビラ)

6・26 支部総会及び第二回「若草」定例会

(神戸ハーバーランド・ホテルニューオータニ)

10・30 睦会(阪神甲子園都ホテル)

11 第十八号支部だより発行(宝塚地区担当)

H7・1・8 新年会(神戸竹葉亭)受賞者のお祝いと支部だよりの反省

1・14 若草新春コンサート(県民小劇場)

1・30 支部・若草連名で震災見舞状発送

2 地区リーダーによる震災調査

4・7 拡大役員会 役員改選 震災後の対策

※ 会計報告は九月に別送致しました。

平成7年度事業計画(中間報告)

H7・6・30 第十三回佐保婦人学級開講式(尼崎女性センター)

7・2 支部総会及び第三回「若草」定例会神戸ベイシエラトンH

9・1 総会報告、会計報告、住所異動会員の名簿を発送

10・7 第一回地区リーダー会(兵庫県教育会館)

10・15 睦会(宝塚ホテル)

11 第十九号支部だより発行(尼崎地区担当)

H8・1 新年会

3・21 第十三回佐保婦人学級閉講式

平成8年度支部総会若草定例会6月23日(日)神戸ポートピアホテル

事務局からのお知らせ

・受賞・出版等をお知らせください
 ・「支部だより」発行の担当地区の順番
 ・個人の情報のため、名簿、会報のお取扱い大切をお願い致します。

会費納入は郵便振替口座番号
 011900872585
 佐保会兵庫支部

・「支部だより」発行の担当地区の順番
 尼崎(H7)↓伊丹(H8)↓川西(H9)↓西宮(H10)↓芦屋(H11)

吉江 順子(〇七九七七八一三四七二)……名簿

瀬川 順子(〇七八一三六一一五四三)……書記

松本佳代子(〇七二七一九一七二六五)……地区リーダー連絡

藤井 勢子(〇七八一三三一五三三四)……会計

◇計 報

川橋 睦代様(S61・家住)H6・2・14
 横山しづ子様(S31・文史)H6・11・8
 井上やす子様(S3・家) H6・12・1
 川端悠紀子様(S6・家) H7・1・17
 朝倉 純子様(S46・理化)H7・1・27
 岡本 いく様(T15・文) H7・4・13
 山本 節子様(S2・理) H7・7・28

編集後記

尼崎に二年早く支離たより編集が回って来ました。年配の委員一人で、戦後五十年を振り返っていましたところ新年旦々の大地震/地震もテーマにしなければ役員改選も重要、若い会員の事も大切、と名簿で電話をかけたつもりでしたが、少人数で奮闘するうち、若い委員も仲間に加わり大変心強く、九十二歳から二十二歳までの原稿が頂けて深く感謝しております。

しかし総量が多くなり、文字が少し小さくなり収縮しています。二頁増頁には、紙質を薄くして郵税は助かりました。今後皆様様の御意見や御投稿をお待ちしております。

編集委員

佐藤すなほ、山川はる江、大西 翠、鈴木 久子、藤岡 利子、大野 恭子、大山 弘美